

目録の祐



大田ゆうすけ No.16
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

ではないが、もう趣味の世界であり、これだけでもエネルギー自給自足にはほど遠いのが現実だ。しかし、自転車は健康にも良いし、薪ストーブの炎は癒し効果満点であり、大いに満足している。

創エネと

省エネのススメ

先の衆議院選挙において、原発と今後どのように付き合おうかという大きな争点があった。即時脱原発・卒原発・原発フエードアウト等、様々な政策が打ち出された。私は、原発は核兵器と同じ「必要悪」だと考えている。必要悪だからできれば減らしたいと思うが、化石燃料に過度に依存することもしろくが大嫌い。選挙の結果を見れば、民意は性急な脱原発を拒否したと言えるだろう。

私は「創エネ」として、我が家にシャープのソーラーパネル・寺田鉄工所の太陽熱温水器・小島の薪ストーブを設置し、再生可能エネルギーをできる限り導入している。反対に「省エネ」としては、エアコンは熱帯夜のみ使用し、猛暑の日は水路の水をポンプアップして庭に散水して凌ぎ、主たる移動手段は自転車、車は薪を運ぶためにトラックにした。別に苦痛

以上のように、国民の多くが

進んで今のエネルギー大量消費型のライフスタイルを変えないか。そうは言っても、徐々に原発からシフトしていくには必要と多くの国民は感じている。そのためには政策的誘導が必要であって、代表的な例が自然エネルギーの「固定価格買い取り制度」だろう。瀬戸内のうと、メガソーラー建設が活発化している。福山市も車社会から自転車の似合う街への転換策として、駅前通りに自転車道が整備されたし、尾道市では電動アシスト自転車の購入補助制度、広島市では「のりんさいくる」という地域の自転車を共有する社会実験を実施中だ。神石高原町や庄原市にはバイオマス熱利用として、ペレットストーブの購入補助制度がある。国民の一人一人がエネルギーに対する意識を変えたいもの、その覚悟を持ちたいものだ。